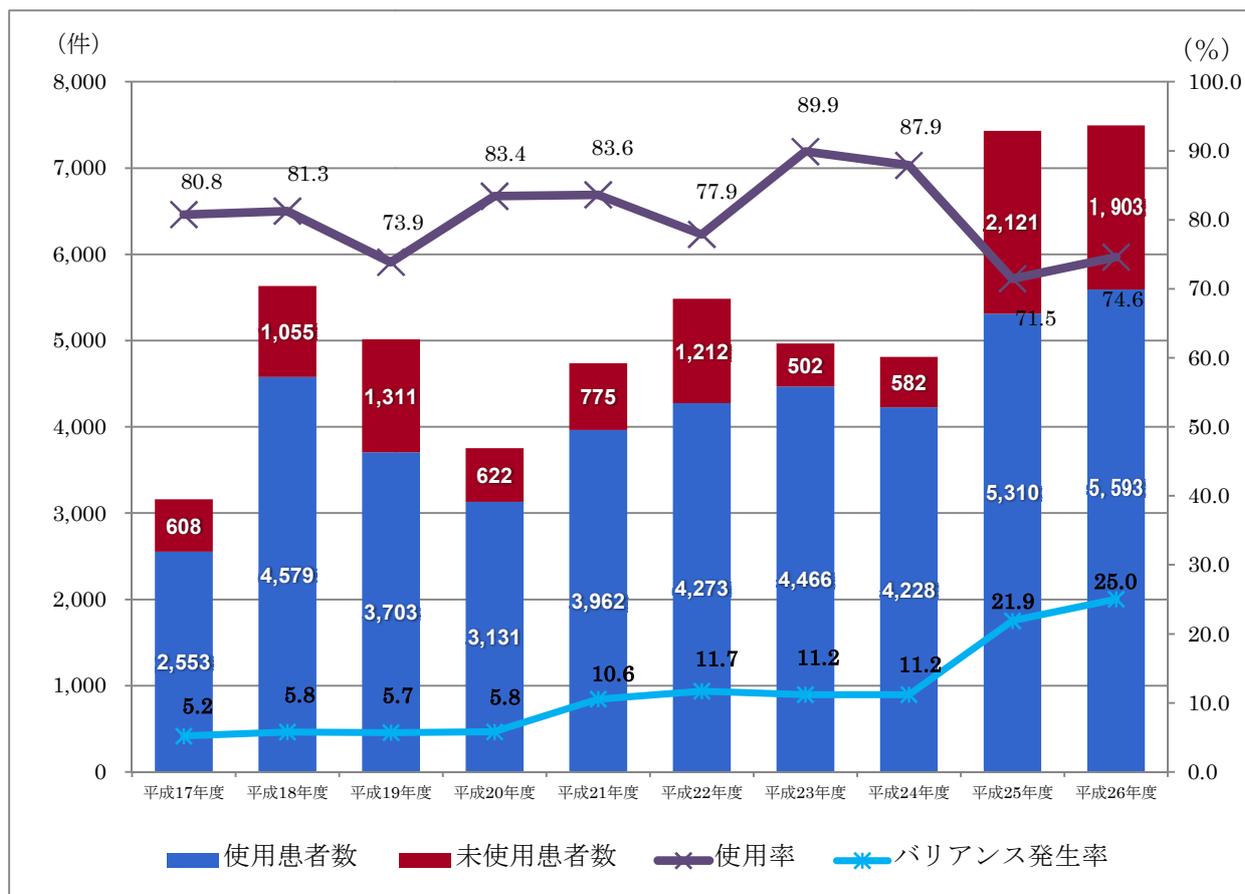


1. クリニカルパス使用実績



クリニカルパスは医療の質の保障と効率化を同時に進める有効な手段として、また根拠に基づいた医療の提供の観点からも、適応される患者には積極的に使用される必要がある。当院においてクリニカルパス数は、22年度162、23年度167、24年度167、25年度167と増加はみられない。

平成25年度よりクリニカルパス委員会が診療情報システム実務委員会に位置づけられ、院内のクリニカルパスの見直しと電子カルテへの導入を目標に進めている。また、看護部でも新たに連絡会を立ち上げ、看護の質向上を目的としてクリニカルパスの活用を推進している。これらの活動が職員一人ひとりの意識に繋がり、クリニカルパス対象の患者が35%近く増加したと思われる。しかし、対象患者の増加に相まって使用率の減少およびバリエンス発生率の上昇を認めることから、クリニカルパスの内容や活用に対する全体的な見直しと、各診療科の医師・看護師等の多職種によるバリエンス分析を喫緊の課題とし、有効なクリニカルパスの使用に取り組んでいきたい。

データ提供 看護部